

2017年度第4回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 寒椿賞

寒椿（かんつばき）は、ツバキ科の常緑低木。花期が12～2月と真冬であることからこの名が付いたと言われる。花色は紅・白・桃色など多彩。また、俳句では冬の季語として使われる。花言葉は「謙譲」「愛嬌」。

○ 浜松ステークス

浜松（はままつ）は、静岡県西部にある政令指定都市。磐田市、愛知県豊橋市などに隣接し、繊維・楽器・輸送機器産業などが盛ん。戦国時代には徳川家康が同地を17年間本拠とし、数々の戦いを繰り広げた。

なお、同市にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるエクセル浜松がある。

○ 豊川特別

豊川（とよかわ）は、愛知県南東部に位置する市。商売繁盛の神として知られる豊川稲荷や国の天然記念物でもある御油の松並木などが有名。市内東部には、愛知県東北部の段戸山に源を発する豊川（とよがわ）が流れる。

<第2日>

○ 栄特別

栄（さかえ）は、名古屋市中区にある町名。また、栄交差点を中心に広がる繁華街。東海地方を代表する商業地区であり、百貨店や高級ブランド店が立ち並ぶ。名古屋テレビ塔が観光地として有名。

○ 鳥羽特別

鳥羽（とば）は、三重県東部、志摩半島北東部にある市。伊勢湾口に臨む鳥羽港を中心に市街地が発達している。古くは九鬼水軍の本拠地で、その後は江戸－大阪間の帆船寄港地として栄えた。現在は真珠島を中心に真珠の養殖や加工が行われている。

○ ジャパン・オータムインターナショナル チャンピオンズカップ（GⅠ）

本競走は、平成12年に創設された『ジャパンカップダート』を前身とするダート重賞競走。当初は東京競馬場で実施されていたが、20年には阪神競馬場へ移設、距離も1800mに変更された。さらに、26年より中京競馬場へ移設し、競走名も『チャンピオンズカップ』に改称された。なお、本競走は、秋季国際GⅠ競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』に指定されている。

○ 鳴海特別

鳴海（なるみ）は、名古屋市緑区の地名。江戸時代には東海道40番目の宿場町として栄えた。かつては海岸であり、鳴海潟とよばれていた。

<第3日>

○ 浜名湖特別

浜名湖（はまなこ）は、静岡県西南部に位置する汽水湖。総面積約65k㎡、最大水深約13m。今切（いまぎれ）より遠州灘に通じる。弁天島・猪鼻湖・引佐細江（いなさほそえ）などの名勝があり、養殖ウナギでも有名。

○ 中日新聞杯（GⅢ）

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。初年度は『中日杯』として実施され、翌年に現在の名称に改められた。当時の中京競馬場は芝コースがなかったため、砂1800mで実施されていた。45年に芝コースが新設されたことに伴い、芝1800mで実施されるようになり、平成18年からは距離が2000mに変更されている。また、19年までは父内国産馬限定競走として実施されていた。

中日新聞社は、愛知・東京・石川・静岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受け施行されている。

○ 犬山特別

犬山（いぬやま）は、愛知県北西部にある市。市の西部には濃尾平野、東部には丘陵地が広がる。市内を流れる木曽川に面して国宝の犬山城があり、江戸時代には城下町として栄えた。

<第4日>

○ こうやまき賞

こうやまきは、マツ目コウヤマキ科の常緑針葉樹。日本固有種であり、秋篠宮悠仁親王のお印である。なお、愛知県新城市の甘泉寺のコウヤマキは国の天然記念物に指定されている。

○ 名古屋日刊スポーツ杯

日刊スポーツ新聞社は、北海道・東京・愛知・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 長良川特別

長良川（ながらがわ）は、大日ヶ岳に源を発し、岐阜県中央部を流れる川。岐阜県北部の山岳地帯を南流し、美濃平野を経て、三重県桑名市の東で伊勢湾に注ぐ。延長約 166 k m で揖斐川、木曽川とともに木曽三川の一つである。夏季に行われる鵜飼が有名。

<第5日>

○ つわぶき賞

つわぶきは、キク科の多年草。東北地方以南の暖地の海辺に自生する。葉がフキに似ており、表面に光沢があるため、艶蒨（つやふき）からつわぶきの名が付いたと言われている。10月頃から初冬にかけて、キクのような鮮黄色の頭状花を咲かせる。花言葉は「謙譲」「愛よ甦れ」。

○ 中京日経賞

日経は、日本経済新聞の略称。同紙は、東京と大阪に本社を置く日本経済新聞社が発行する日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 高山特別

高山（たかやま）は、岐阜県北部の市。飛騨地方のほぼ中央、高山盆地の中にある。優れた風景と碁盤目形の街路などから、「飛騨の小京都」と呼ばれており、陣屋前や宮川沿いで行われている朝市には多くの観光客が訪れる。日本一の面積を誇る市としても知られている。

<第6日>

○ 桑名特別

桑名（くわな）は、三重県北東部の市。江戸時代には東海道 42 番目の宿場町として栄えた。熱田、宮宿から伊勢湾の海上七里を海路で渡る「七里の渡し」の舟着き場があり、東海道の要所であった。長島温泉や国の重要文化財として指定されている六華苑などが有名。

○ 三河ステークス

三河（みかわ）は、旧国名の一つ。現在の愛知県東部にあたる。平安時代の律令施行細則である『延喜式』によれば、三河は上国（一等国）であったと記される。明治 5 年（1872）には、尾張を併せて愛知県となった。

○ 尾張特別

尾張（おわり）は、旧国名の一つ。現在の愛知県の西部にあたる。平安時代の律令施行細則である『延喜式』によれば、尾張は上国（一等国）で 8 郡あったと記されている。戦国時代には、織田信長、豊臣秀吉といった有名武将を輩出し、江戸時代は、御三家筆頭の尾張徳川家の所領となった。